

令和 2 年度

事業所名： 介護予防施設 西光荘

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500021		
法人名	株式会社 金ヶ崎福祉フロンテア		
事業所名	介護予防施設 西光荘		
所在地	〒029-4503 事業所住所岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544-2		
自己評価作成日	令和2年8月21日	評価結果市町村受理日	令和2年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①町の西部に位置し天然温泉の入浴サービスを提供しています。 ②開業以来15年経過し看取りまではいかないが重度化した利用者様を可能な限り介護サービス提供しています。③専任の看護師が配属されており利用者様の健康管理サービスをしています。④認知症対応型通所介護サービス提供しており馴染の関係づくりにより若干のじかんを要するものの良い刺激の場を提供しています。⑤6人の職員が認知症実践者研修を受講しており現場に活かして認知症介護サービスを提供しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は金ヶ崎町の中心地から車で30分の西部に位置し、金ヶ崎温泉(駒子の湯)の敷地内に開設されている。周囲には酪農中心の農家が多く、畑地や牧草地が広がる自然豊かな環境の中にある。和光地区は地域作りに先進的に取り組んでいる地域であり、当事業所との交流機会も多く、地域の自治会や女性部からの依頼でホームの説明に出向いたり、夏祭りや敬老会には地域から多くの方々に参加している。地元の小学生や幼稚園児が来往して交流する機会も定例化されている。医療面では、地元診療所からの定期的な訪問診療を受けられ、事業所には専任の看護師が配置され安心感も大きい。町の第3セクター会社の一つとして、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型通所介護と一体的に運営され、開設15年を数える。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念と介護理念の3項目(日替わりで1項目)、月2回開催の合同ミーティングでは職員信条を唱和している。年間介護目標も掲示している。	開設時に作成した基本理念や介護理念をホール内に掲示し、職員の意識付けを図っている。理念をより具体化した職員信条も作成し、毎朝の送りや月2回の合同ミーティングで全員で唱和しており、理念をケアの実践に生かすよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の利用者様、職員間での共通話題から地域の一員としての場面が見受けられます。また、玄関出てすぐに、路線バス亭がありバスを待つ方とのふれあいの機会もあります。	社長が地域の自治会総会に出席し、自治会が主催する福祉関連の講座や女性部の集会には、職員が講師として出向いている。また、地元の小学校からは4年生がボランティア体験として来訪するほか、幼稚園児も訪れて歌や踊りを披露し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護事業所の職員が町内方、対象として週1回「貯筋講座」月2回「ゆったりサロン」と介護予防事業を担当している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により紙面開催、その後、対策を講じての開催。利用者様代表の方の体調により欠席が困難となってきておりますが行政、地域、ご家族の代表の方他各委員より助言頂いたり地域に開けた意見交流の場となってきております。	委員は、元自治会長(消防団長)や元民生委員、役場職員等で構成されている。コロナ禍のため、1月と3月は書面開催となった。会議の中では、委員から職員の職場環境の改善提案や重度化した利用者への介護支援をねぎらう言葉も出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	第三セクターの事業所でもあるため、頻回に町担当者との連携はかり助言、指導頂き、事業所からもご相談、報告は欠かさず実施しております。	運営推進会議には毎回、町介護保険課から職員が参加している他、日常的に電話やメールで連絡を取り合っている。地域包括支援センター主催の地域ケア会議(隔月開催)や、個別ケア会議(毎月開催)にも参加し、関係機関との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員までは不十分であるがミーティングで身体拘束がもたらす介護への影響等につて認識し日頃の介護に取り組んでいます。	身体拘束に関する研修は、職員合同ミーティングで実施している。朝礼で行っている職員の1分スピーチでは、言葉遣いやスピーチロックについて話す職員が多く、問題認識を共有している。玄関の施錠は防犯のため夜間のみとしている。家族の了解を得てベッドセンサーを1人が使用している。	身体拘束に関する指針の作成や適正化委員会の開催などについて、取り組まれている内容を速やかに確認されることをお願いしたい。

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待の有無について日頃から検証しているが虐待を引き起こす職場環境、労働条件も管理に努め改めて内部研修で高齢者虐待防止関連の法的研修会の機会を最低年1回はオンライン研修利用により全職員の受講を考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	No.7と同様に全職員内部研修を考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には利用者様、ご家族が理解頂ける様丁寧な説明を心がけている。利用者様とご家族様の思いが一致せず苦慮する場面もみられるが両者の思いがなるべく一致出来るよう対応に努めている。また、改定の際も早期報告し理解、協力を努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが行事後に家族懇談会の機会を設け要望、意見を頂き、ご意見、要望を元にサービス向上に努めている。	コロナ禍のため今年は難しいが、従来は事業所の夏祭りや敬老会等の行事に家族の参加を呼びかけ、家族懇談会を開催している。家族からは、職員確保を心配する声もあった。また、毎月の広報送付と併せて、各利用者の生活状況報告書も郵送して近況をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は合同ミーティングに殆ど出席の他、定期的面談を継続的、あるいは必要随時に行い、職員はいつでも意見、要望等発言できる体制となっている。	月2回の職員合同ミーティングには、社長も毎回同席している。職員の意見をもとに、食事作りが苦手な職員でも取り組めるメニューを作るなど、様々な改善に繋げている。社長は、職員との個人面談を年2回行い、時にはさりげなく声を掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	No.7と同様に全職員内部研修を考えている。(7)と同様。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常時、社会情勢をキャッチされ必要研修、必要資格受講機会を職員に、直接的、間接的に、提供を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は代表者の立場で同業者との交流の機会を設けられている。町主催の個別会議ではケアマネ質向上の為のケース検討会にへの参加、包括支援センター主催会議では町全体の介護事業の状況把握の機会があり、情報収集の機会となっています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネは初回の実態調査の際は介護介入の大切な場面と捉え、基本情報シートからご本人様のニーズ、全体像が把握出来るようにし、ご本人様、ご家族様はもとより、介護介入する職員との双方の不安をより軽減した上で介護サービス提供出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネは初回の実態調査の際は介護介入の大切な場面と捉え、基本情報シートからご本人様のニーズ、全体像が把握出来るようにし、ご本人様、ご家族様はもとより、介護介入する職員との双方の不安をより軽減した上で介護サービス提供出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応としてほとんどが認知症による症状の為に在宅介護継続が困難な場合が多く、入所という、環境が大きく変わる場面の遭遇からのスタートとなるため環境変化によるダメージによる偶発事故の防止を優先に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支える利用者様より支える職員が支えられているという思いの発見が出来るよう努める。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	余技なく在宅介護出来ない状態にあるご家族様の心情をくみ取りご本人様とご家族様のパイプ的役割の認識も必要と考えて介護にのぞみご家族にご様子を細やかにお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会制限があるため、ご本人様のご様子を生活状況の報告時以外にも写真等を利用し様子を伝える。	従来は家族や親戚、知人等の面会が、月に2、3人程度はあったが、現在はコロナ禍のため面会制限となり、電話でのやりとりとなっている。理容は、月に1、2回の訪問理容があり利用者の馴染みとなっている。現在は、隣接の小規模多機能ホームとの交流も制限されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時、食事席交換の実施により、利用者様間のコミュニケーション支える。また、集団から少し離れ、自分の空間が保てる工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は重度化による契約終了が多い。看取り寸前までの介護サービスの提供であるためそれまでの期間を日々大切な支援ととらえている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、テレビを見て集中された番組の発見や、新聞雑誌の記事で集中ばめんを発見することがあり利用者様の関心事項に遭遇事がある。重度化しているからこそご本人様の希望を見いだせるゆとりに努めている。	重度化に伴い、思いや意向を言葉で伝えることが出来る利用者は3人程になり、他の利用者からは、表情や仕草などから、職員が読み取るようにしている。相性が良くない職員とのマッチングについては十分配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネは初回の実態調査の際は介護介入の大切な場面と捉え、基本情報シートからご本人様のニーズ、全体像が把握出来るようにし、ご本人様、ご家族様はもとより、介護介入する職員との双方の不安をより軽減した上で介護サービス提供出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重度化にありながらもご本人様の役割、日めくりカレンダー、ホール歩行訓練、好きな場所への移動、食後の茶碗拭き、新聞たたみ、洗濯物の畳み方等、達成の支援に努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	合同ミーティングで、利用者様動向から課題とその対応について協議の機会としている。ご家族様とは、コロナ禍の為電話での報告、同意となっている。	利用者は、併設の小規模多機能ホーム利用後に、ホームに入居する例が多く、合同ミーティングには小規模ホームの職員も参加している。介護計画の原案をもとに職員カンファレンスで検討のうえ決定している。計画の原案は、3～6か月毎に計画作成担当者のモニタリングに基づいて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々関わりや、観察事項、ご様子については詳細記録し、綿密に情報交換を行っている、		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診察による受診。訪問理容の利用。外部クリーニング屋さんの利用。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	休止中ではあるが介護相談員の訪問。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様で入所前よりの認知症専門医の受診されており進行状態にあり入所継続のためにも引き続きの専門医による治療が必要と思われます。	利用者の大半の8人が地元診療所をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療を受診している。1人は入居前からの地元のかかりつけ医を利用し、家族が同行受診している。事業所には複数の看護師が勤務し、医療面での安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが専属の看護師が配置されており、健康管理、健康相談を担って頂いている。月1回の訪問診察の際も必ず立会い利用者様の状態報告、指示受けを担当して頂いている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された場合、定期的に入院先に連絡をいれ状態を把握に努めている。必要時、退院後の受入可能の有無、転居先等の相談も予測をたてながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り導入未体制のため入所時、及び重度化状況の際、ご家族様と協議の機会を設けている。	入居時には、重度化した場合の方針等を説明しており、看取りは行っていないことも伝えている。それでも、看取りを希望する家族もあり、その必要性は認識しており、看取り方針は既に作成している。協力医や常勤の看護師からは、丁寧な検討が必要との助言に沿って、職員間の対応や心構えについて共有化を図るため、研修会を開催しながら、看取りの実施については、継続して検討することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同ミーティング時の内部研修の機会全員とは言えず、実践力までとはいえないがオンライン研修に緊急時対応について受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は実施しているが風、水害時の防災訓練に関して今後の課題である。	地域から3人の消防団員による見守りの協力が得られる体制が出来ている。7月に小規模多機能ホームと合同で、夜間想定避難訓練を実施したが、職員2人で避難誘導に要する時間等の課題を実地に確認する良い機会となった。	夜間想定訓練の実施は秋頃の薄暮時間帯を利用したり、地域の協力者も実際に参加する等により、更に実践的な取り組みとなることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時の配慮、また人生の先輩であることを認識し尊厳ある声がけを心がけている。	トイレの誘導時には耳元で小声で声掛けするようにし、排泄時や着替えの際には居室のドアを閉めて行う等、プライバシーに配慮したケアを心掛けている。職員信条の第1条に、「言葉遣いはやわらかく丁寧に」と定め、利用者を尊重した声掛けを実践している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しいが非言語的コミュニケーションのご本人様の表情等からの思いを察するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れ決まり事はあるが可能な限りご本人様のペースに合わせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口腔ケアの際鏡をみて髪を手櫛でとかしている利用者様をみてそっと櫛をわたしてみる事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食べ物の返事がなかなかきかれないが、季節の野菜、山菜を提供すると「美味しい」と笑顔がみられた。	献立作成や買い物は職員が行っており、刻み食等は利用者の状況にあわせて準備している。1人の利用者が食器拭きを手伝っている。重度化やコロナ禍のため、外食に出来ないため、近隣の産直施設から敬老会用のお弁当を取り寄せるなどして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は各利用者様の好み、咀嚼状態、嚥下状態等に配慮し、また、便秘対策も考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声がけによる口腔ケアを促し、声をも理解できない利用者様には模倣動作を見せ、最後に介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンに合わせ、排泄用品も個々に合わせ、トイレ誘導しトイレでの排泄を心がけている。	排泄チェック表に基づき、食事の前後の時間帯を中心にトイレ誘導している。現在は布パンツで自立が1人、リハビリパンツとパット利用が6人、オムツ使用が2人となっている。トイレがわからない、間に合わない等、利用者の様々な状況に合わせて支援を行っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事はもちろん、水分補給出来るよう種類も吟味している。適度なホーム内の運動も声かけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は天然温泉で併設の浴室で行っている。午前の時間帯でなるべく個々の利用者様に応じて入浴サービスを提供している。	週に2、3回の入浴を基本としている。事業所には家庭風呂、併設の小規模多機能ホームには大きな浴槽があるが、コロナ感染予防のために、現在は介助が必要な利用者のみが大浴場を利用している。天然温泉のため、利用者から喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での不眠の利用者様には職員の気配が感じられるホールソファ、畳みで臥床して頂く場合もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効を把握し服薬後の状態の観察に心がけ、副作用等の症状の観察や、状態の変化の確認を行っている。訪問診察時には状態報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯量や食器拭き、新聞たたみ等、利用者の出来る事への支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春のお花見、花見ドライブ散歩や外気浴兼ねた、外で体操している。コロナ禍に影響ない時期には文化祭の作品見物にでかけた。	コロナ禍のため、外出機会が少なくなっているが、天気の良い日には事業所周辺の散歩や玄関先での外気浴や体操を行っている。プランターでの野菜作りにも取り組んでいる。不穩になった利用者が、小規模多機能ホームの送迎車に同乗し外の景色を眺めたりすることで、心が落ち着くことがあるとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化の為か利用者様でお金の価値、大切さの理解可能な方は少なく日頃もお金に関する話題される方はほとんどない。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所間もない利用者様に、ご本人の自筆でお便りが出せる支援する必要がある。書字可能な利用者様の残存機能発揮す機会がない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけをしている。(七夕、クリスマス、正月、水木団子)また、行事の写真や作品(書初め)を掲示している。	天井が高く、日当たりも良い。壁面には、季節ごとの飾りつけや花が飾られ、明るい雰囲気となっている。床暖房であり、感染症対策で塩素入り加湿器を使用したり、新型コロナウイルス対策用に職員手作りの仕切りボードをテーブルに置いて活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで思い、思いに過ごせるようソファの位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染の物を飾ったり写真を飾っている。また、ご家族にもお願いしご家族の様子が疎遠にならないよう良性刺激の協力を頂いている。	居室には、エアコン、ベッド、整理タンス、洗面台が備付けられ、利用者は家族写真やお気に入りの小物を持ち込んでいる。入口の木の表札には、異なる花が描かれ名前が表示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーと、手摺が設置されており、歩行器他の福祉用具使用も可能の広さがあり、各居室入り口には解りやすい目印が設置してある。		